

## 横田の空兵 嘉手納に即応機材を輸送 Yokota Airmen send readiness asset to Kadena

May 6, 2021

By Tech. Sgt. Christopher Hubenthal  
374th Airlift Wing Public Affairs

5月4日、横田基地第730航空機動中隊の空兵は、嘉手納基地第733航空機動中隊の航空機整備士を支援するための活動の一環として、チャールストン統合基地所属のC-17グローブマスターIIIにエンジンを搭載した。

第515航空機動運用群とボーイング・エンジン管理チームは、そのC-17エンジンを第730航空機動中隊に提供し、第730航空機動中隊は準備態勢を強化するための訓練プログラムに現実的かつ実践的な機材(エンジン)を用いた。

今回のエンジンの(横田から嘉手納への)移動は、第515航空機動運用群の配下にある6つの中隊が参加する「ノーダル・ライトニング・パシフィック」演習に合わせて行われた。そのC-17は演習の一環で日本に滞在していたため、通常よりも早く移すことができた。

その能力を嘉手納基地の仲間の整備士に伝えられたことは、横田基地の整備士にとって、やりがいのある仕事だった。

第730航空機動中隊航空宇宙推進技術官であるエイドリアン・ディアス軍曹は、「我々の時と同様に、彼らにインパクトを与えるだろう。海外でエンジンが訓練目的で充てられることは非常に稀なことだ」と述べた。

第730航空機動中隊エン・ルート航空機整備部隊責任者クリス・ハニフ大尉は、訓練に使えるエンジンがあることで、より効率良く訓練を行うことができることに触れ、「それによって隊員たちは、エンジンの専門用語やトラブルの解決策を確実に覚えておくことができる」と述べた。

ディアス軍曹は、エンジンを使って訓練を行うことで、運用中の航空機に損傷を与えることなく、整備士のスキルを磨くことができると語った。

「周囲の部品を壊さずに適切に取り外すには、まっすぐ引き抜くだけでなく、左にねじったり、右にねじったりする必要があることをあえて指導者が教えてくれないことがある。なので、部品の取り外しと再取り付けを練習するために自由に使えるエンジンがあることは実に有効だ」とディアス軍曹は述べた。

ディアス軍曹は、そのエンジンを通じて嘉手納の空兵が横田の空兵と同じように訓練の成果を得られること望んでいる。さらに、「第733航空機整備中隊の空兵に望むことは、彼らがエンジン全体についてより熟達し、知識を深めることだ。部隊のメンバーを訓練している時に気づいたが、訓練用エンジンを使うことで、技術的な指導と実際にやってみて学ぶことが一致し、はっとする瞬間が何度もあった」と述べ、「第733航空機整備中隊の整備士にも、こうした発見があることを望んでいる」と続けた。

第733航空機整備中隊整備運用管理官コーディー・マックビー軍曹は、エンジンを使うことで部隊の訓練プログラムをどう強化できるか、期待を語った。そして、「スペアのエンジンがあると、機体まるごとなくても、ベストな訓練ができる。訓練で横田と連携することは、我々にとって非常に重要だ。訓練を受けて資格を有する隊員が増えれば、互いに頼る必要が減る。修理する資格を持たない航空機が故障した場合は横田頼みだ」と述べた。

より良い訓練方法を見出すことは、部隊の即応力とレジリエンスを高め、必要時に戦い、勝利する太平洋空軍の能力を確保するのに役立つ。

